静岡 SHIZUOKA

「福岡ふじのくに静岡県人会」 発足

福岡県在住の静岡県出身者や、福岡県 とかかわりが深い静岡県内の企業などで つくる「福岡ふじのくに静岡県人会」が 福岡市内において1月28日に設立され た。設立総会には来賓の川勝静岡県知事 や福岡県側の経済関係者なども出席さ れ、富士山静岡空港の利用促進に関する 支援、博多祇園山笠の開催期間に合わせ た両県の交流会開催など、活動方針が決 定された。総会後の懇親会では、会場内 に静岡県を紹介する映像やコーナーが設 けられ、県内出身者や福岡と静岡の交流 を積極的に支援している博多街づくり推 進協議会のメンバーが紹介されるなど、 故郷の状況を懐かしむと同時に今後の発 展につながる会話もあり、有意義な時間 が持たれた。さらに、福岡市西区に在住 し、初代会長に就任した画家神田淳子さ ん(沼津市出身)から静岡県に作品が贈 呈された。

福岡県と静岡県との交流の始まりは、 鎌倉時代にまで遡るが、絆をより一層深 めた人物が、駿河の国(現静岡市葵区栃 沢)で生まれ、博多に承天寺を開いた名 僧「聖一国師」。福岡の夏の祭りとして 有名な博多祇園山笠は、聖一国師が当地 の疫病を鎮めようと祈祷水を撒いたのが 始まりと言われている。また、同氏は静 岡において、お茶の祖としても有名であ る。昨年は開港した富士山静岡空港と福 岡空港との間に路線が就航したのを記 に、768年に及ぶ山笠の歴史の中で初め



て聖一国師の生家を流れる水が追い山で 使用されたり、他にも歴史的、文化的つ ながりによる両県の交流が行われ始め た。設立総会時の祝辞において、川勝知 事は「富士山のある日本の奥座敷静岡と アジアのゲートウェイである福岡との交 流を積極的に行っていきたい」と述べ、 さらなる交流の発展を期待していた。

現在、九州の人口は約1.300万人で、 その4割弱の約500万人を擁し、多くの 産業・文化の交流拠点となっている福岡 県。温暖な気候と豊かな自然、東アジア に近接しているという地理的条件や開放 的で進取の気質に富んだ県民性を持つ福 岡県に拠点を設ける静岡県の企業も少な くない。県人会発足の機会を、より一層 のビジネスチャンスと捉え、各業界の緊 密な相互往来や文化交流が進展すること で、静岡県内企業や産業の成長、地域の 活性化が図られていくことが望まれる。

> 福岡ふじのくに静岡県人会 事務局: スルガ銀行福岡支店 TEL:092-771-1318

神奈川 KANAGAWA

江の島一大島航路 36年ぶり正式復活

~東海汽船が自主運航へ~

東海汽船 (東京都港区) の 「江の島―大 島航路」が、江の島を抱える藤沢市の後 押しで36年ぶりに正式に復活する。

同社の高速ジェット船をチャーターし て行った同市の実証運航が大成功したた め、市長と社長のトップ会談で6月9日 を皮切りに、今年3回の自主運航を行う ことが決まった。

同航路は1964年6月の運航開始を目 標に、63年に航路申請された。しかし、 江の島・湘南港が東京オリンピック (64 年)でヨット競技の会場に選ばれたこと から、就航を半年間延期。65年から毎日 1便(1往復) 運航され、最盛期の67年 には年間 16 万 2.200 人が乗船した。

70年代に入ると、東京や熱海(静岡県) と大島を結ぶライバル航路が登場。江の 島―大島航路は航路再編により、利用し にくい発着時間に変更されたため、74年 はツバキまつりの1月と夏休みの7、8 月のみ運航し、乗船客は1万950人まで 減少した。75年から運航を休止し、76 年7月には航路が廃止された。

ところが、2000年代に入って市立植物 園「江の島サムエル・コッキング苑」(03) 年)、新江の島展望灯台(同)、新江ノ島 水族館 (04年)など新たな観光資源が次々 とオープン。島そのものの観光価値が高 まっていることから、相乗効果で江の島 ―大島航路の採算も見込めるとして、同 市は昨年、同社に航路復活を要請した。

それを実証するため、同市は昨年6月



自主運航に使われる予定の高速ジェット船。昨年の実証運航でも活躍した

26日から3回にわたって同社の高速ジェッ ト船 (定員約250人) のチャーター運航を 実施。電話で申し込みを受け付けた1回目 は、わずか20分で完売。往復はがきによ る抽選に切り替えた2回目(9月30日)と 3回目(10月21日)も、定員の3倍を超す 高い競争率となった。

海老根靖典藤沢市長と山﨑潤一東海汽 船社長のトップ会談では、同航路を新た な観光の目玉とすることで一致。同市の 要請を同社が受け入れて、今年3回の自 主運航が決まった。同航路の正式な復活 (自主運航) は、74年の最後の運航以来 36年ぶり。

第1回自主運航は6月9日、第2回、 第3回は9~10月に実施する予定で、乗 船料は現在検討中。同市は藤沢市観光協 会、大島町(東京都)とともに後援し、神 奈川県や観光事業者と連携して支援を行 う。具体的には、市広報紙による告知など で、集客に協力することなどを考えている。